

出生前診断には、どんな方法があるの？

	受精卵診断	新型 出生前検査	超音波による NT測定	母体血清 マーカー検査	羊水検査
実施 時期	着床前の 受精卵	妊娠 10週以降	妊娠 10～14週	妊娠 15週前後	妊娠 15～18週
方法	体外受精を行 い、受精卵か ら細胞を採取	妊婦の血液を 採取、 DNA断片を 検査	超音波により 胎児の首の 後ろのむくみ を測定	妊婦の血液を 採取 タンパク質な どを検査	腹部から羊水 を採取 羊水中胎児 細胞を検査
診断 対象	遺伝子・染色 体の「異常」	染色体「異 常」など	染色体「異 常」など	染色体「異 常」など	遺伝子・染色 体の「異常」
安全性	侵襲的	採血のみ	ほぼ安全	採血のみ	流産の危険 性が0.3%
精度	70～80%	50～95%	可能性のみ	可能性のみ	ほぼ確定的
特徴	妊娠成立前に 診断	「ハイリスク」 の人では精度 が高い、診断 対象の拡大	診断の意図な く、「見えてし まう」	確率が示され る	実施時期が 遅い

出生前診断の現状

出生前診断実施件数の推移

